

ケガニ



ケガニの成長(年齢起算日2月1日)

年齢	オス		メス			
	年齢	甲長 (mm)	体重 (g)	年齢	甲長 (mm)	体重 (g)
6	1歳	22.3	5.0	1歳	22.1	4.9
7	1.5歳	28.5	11.1	1.5歳	28.6	11.3
8	2歳	35.7	22.9	2歳	36.2	23.8
9	2.5歳	47.1	56.2	2.5歳	47.4	56.8
10	3.5歳	57.6	107.7	-	57.0	102.2
11	4.5歳	66.6	172.1	-	64.6	152.6
12	5.5歳	76.6	270.8	-	71.1	207.4
13	6.5歳	84.9	377.6	-	74.9	244.5
14	7.5歳	95.9	560.5	-	82.9	338.3
15	8.5歳	105.0	752.6	-	-	-

*満1歳を6齢期と仮定。雄は10齢期以降毎年脱皮と仮定。福島水試研報13号

生態

- 分布・移動：日本海、茨城県以北の太平洋岸に広く分布します。福島県沖では水深150～300mに分布しますが、150m付近の分布は春季が中心です。
- 成熟・産卵：メスは甲長40mm台（9齢期、ふ化後2.5年）から成熟します。交尾期は6～9月、ふ化期は2～4月です。
- 食性：甲殻類、魚類、多毛類が主体です。

漁獲の動向

平成22年の漁獲量は87トン、漁獲金額は0.7億円でした。震災前では、60～200トン、金額では0.5～1.4億円程度で推移していました。漁業種類別漁獲割合は、沖合底びき網で88%、小型底びき網で12%、その他の漁業で1%以下でした。漁獲主体はオス、メスとも11～13齢期（4.5～6.5歳）と考えられます。

震災以降（平成23年4月以降）は出荷制限指示はされず、平成24年9月より底びき網漁業の試験操業対象種として水揚げが再開されました。平成24年以降の漁獲量は1.7～8.7トン、漁獲金額は3～17百万円（H24～29年は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。令和4年の漁獲量、漁獲金額は前年より増加し、8.7トン、17百万円となりました。

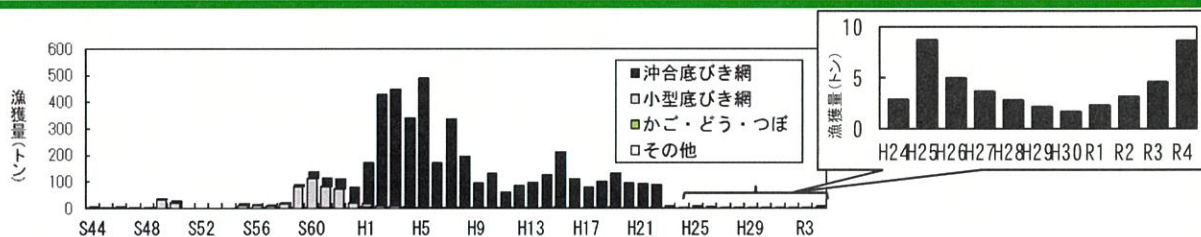


図1 ケガニの漁業種類別漁獲量の推移

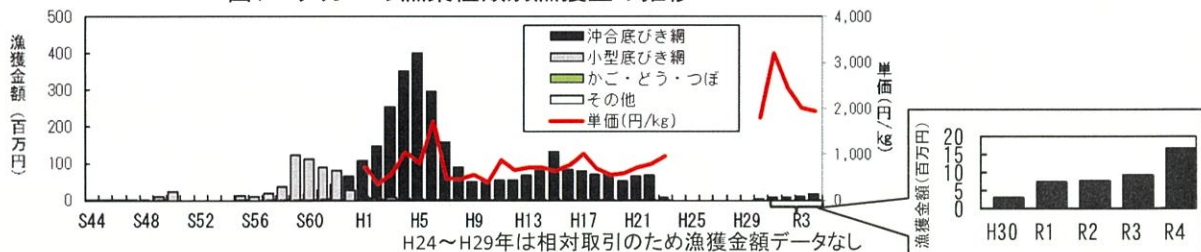


図2 ケガニの漁業種類別漁獲金額と単価の推移

資源の状態

○底びき網のCPUE（1時間曳網あたりの漁獲量）から見た資源状態は中位で、減少傾向と考えられます。

○県調査船による調査では、直近5か年の新加入水準は低水準と判断されました。

資源の水準：中位

資源の動向：減少

現在実施されている管理策

県内全域で漁協の自主規制として甲幅55mm以下の水揚げ規制が行われています。

今後考えられる管理策

産卵間隔が約3年と長く、その間脱皮しないため成長しないメスの漁獲を規制し、産卵量を確保することが有効と考えられます。また、資源を効率的に利用するため、単価の安い10、11齢期（甲長57、66mm）の水揚げ規制等が考えられます。